

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177200078		
法人名	環境開発株式会社		
事業所名	グループホームのぞみの家 カナリヤ館		
所在地	北海道赤平市宮下町3丁目1番地		
自己評価作成日	令和元年10月31日	評価結果市町村受理日	令和2年1月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0177200078-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号
訪問調査日	令和元年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1、看護師を配置している。定期受診や状態変化時は職員が受診をおこない利用者様の健康状態の把握や家族様や医療機関との連携を密に取っている。</p> <p>2、敬老会は家族様へ参加の促しを行い一緒に行事に参加して頂いている。</p> <p>3、天候に合わせ(冬期間は除く)GH2号館・3号館と共に敷地内の広場で体操を行い他館との交流の機会を作っている。また、体調により一泊や日帰り旅行を実施している。</p> <p>4、毎月御家族には写真付きの手紙を送り、日々の様子がわかりやすいよう工夫している。</p> <p>5、入院中の利用者様の洗濯支援をし、退居した場合でも必要に応じて継続して行っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご家族の介護に近づけるように、管理者と全職員は理念に基づいた支援に心掛けている。今年度は一日一笑を目標にしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣小学校の運動会や学習発表会などのお誘いを受け見学に行ったり、ランフェスタなどお祭りにいき顔馴染みの人と出会ったりする事で地域の交流が図れている。近隣小学校の入学のリボンを手作りし送っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議や商興会の集まりに参加するなどし、認知症への理解を深められるよう努力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告の内容やそれにかかる費用また、利用者様の状況などの質問や委員の意見を聞いている。災害時の避難所や対応についての意見も多く、今年度は発電機の設置を行う事となった。避難訓練に参加して頂く事もある。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	情報交換や分からない事を含め相談に行くなどしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯のため夜は施錠を行っているが、日中は施錠なく希望があれば自由に野外に出る事ができる。スタッフは研修に参加している。現在、身体拘束対象の利用者様はいない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は入浴時に身体確認をしたり、精神的虐待がないか言葉遣いなどに注意を払っている。スピーチロックアンケートを実施し言葉遣いについても認識を再確認している。研修に参加し学習会も開いている。		

グループホームのぞみの家 カナリヤ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方はいないが、制度については学ぶ機会が作れるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前訪問や契約時、紙面を見ながら説明している。質問についてはその都度返答し理解や納得を得られるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様は日常生活の中で、家族様は来訪時に意見や要望を聞いている。毎月、家族通信と共に「家族様からのぞみの里へ」と意見や要望を書いて頂く用紙を送付している。意見・要望には迅速に対応している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議やミーティングで話し合った事など、運営会議で報告し、反映できるよう話合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格を取得したら手当を支給するなど、向上心を持って働けるよう努めている。お盆や正月には休日がありリフレッシュの時間を取ることもできている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修後内容を回覧し、参加できなかったスタッフも閲覧できるようにしている。常に問題意識や向上心を持って働くよう話している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	スタッフ研修会の参加などで交流する機会や意見交換の場を作り、サービス向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問時、本人・家族様から不安や心配な事を聞き取り、利用開始後は早く馴染んで心配事が遠慮なく話せるような関係を築けるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様などの思いを十分に傾聴し、利用者様とご家族様との関係も考慮しながら、良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前訪問の際、本人・家族様の話をよく聞き、必要としている支援を知るようにしている。また、他のサービスが必要な時は連絡も含め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事仕事や自室の掃除などをスタッフと共に行っている。手伝って頂いた時は感謝の言葉を伝え、役に立ったとの気持ちが張りに繋がるようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子を手紙や日誌で報告している。利用者様を交え家族様の意見や心配事の相談などを行うようにし、家族様と一緒に本人を支える関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室や利用前からのかかりつけ病院などに行っている。また、面会しやすい雰囲気作りにも心掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないようにスタッフがパイプ役になっている。レクなどは利用者様ができるだけ多く参加するように配慮し楽しい時間作りに心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の相談や退居後も入院している方の家族様の状況により洗濯支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前訪問時に生活状況や習慣を聞いているが、本人様と話をしながら希望や意向を引き出している。困難な方は、家族様との相談やスタッフが喜んで頂けた事を共有し支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問時に生活習慣や趣味などを把握し入居後に生活環境が大きく変わらないように出来る限り努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の状態や状況を把握し「できる事は自分で」の方針を変える事なく生活して頂いている。付き添いは行い迷った時は相談や支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様が安心して暮らして行けるように、状況の把握と共に本人様の意向を汲み取り介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌には日々の様子や普段とは違う行動等も記録し、その他必要事項は申し送り簿も活用しながら情報の共有を図り実践や計画に活かすようにしている。ケアプランに関係する事は日誌に番号を入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに合わせた対応を出来る限り行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近郊小学校の招待を受け運動会や学習発表会に行き交流や昔を思い出す機会を作れている。また、消防に来て頂き避難訓練をしている。運営推進会議委員が参加して頂ける事もある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族様の意向により、利用以前のかかりつけ病院、芦別・砂川・滝川市に受診している方もいる。付き添いはホームで行うが家族様が同行する事もある。		

グループホームのぞみの家 カナリヤ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の受診ファイルや日誌に受診結果など記録している。気づいた事や、何か変化が見られたときには報告・相談し適切な対応ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書と口頭で、生活状況や心身の状態を伝えている。こまめに病院に行き、看護師から状況を聞く、また、必要物品の依頼を受けた時は速やかに用意するなど安心して治療に専念できるように病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応に関わる指針」の同意を入居時に家族から署名して頂いている。家族様を交えかかりつけ医とも相談し、どうケアすべきか職員で話し合っている。現在、対象の利用者様はいない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受けたり、日々の申し送りの中で緊急時に備えた話し合いをしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防と地域の協力を頂き、避難訓練を実施している。災害に関しては避難所や熱源・発電など運営推進会議での検討事項にもあり話し合っている。発電機を設置する事になった。水や食材の備蓄も用意している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の個人を尊重し、人生の先輩であることを忘れず適切な言葉づかいを心掛けている。スピーチロックアンケートも実施し言葉遣いに気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中の細かい点でも意志決定できるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた支援を心掛けている。。希望や要望には可能な限り応えられるように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服を選んで着たり、行事で出かける時には化粧をして頂くこともある。お気に入りの服ばかり着てしまう方にはスタッフから促しも行っている。		

グループホームのぞみの家 カナリヤ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の健康状態を把握し、食事量・水分量は毎食記録している。体調不良などで、食欲のない方には、代替品を提供し栄養を確保している。利用者様の希望を聞き外食する事もある。行事食は特に喜ばれている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は偏らないよう気を付けている。また、食事の支度や後片付けのお手伝いも行っている。便秘などにならないように繊維質や季節感のある食材を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアし、できない方には援助やお手伝いも行っている。口腔内に異常がある場合は速やかに歯科受診も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表によりパターンを把握し、時間や表情、仕草等を観察しながら誘導し、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や野菜・乳製品を適度に摂っていたり自然排便に繋がるよう予防している。体操など身体を動かす機会を作っている。整腸剤や下剤を使用している方もいる。排便の状況により医師に相談する事もある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	常に浴槽にはお湯を入れた状態になっており、希望の時間に入浴して頂けるようにしている。曜日や時間の決まりはなく、できるだけ希望に添った入浴が出来るよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活習慣にそって休息の時間をとっている。安眠に繋がるよう身体を動かす機会や室温なども考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋により薬の内容を把握している。副作用も情報として理解している。受診時に不安に思う事を含め、医師に相談したり、状況に応じ予約受診前に受診する事もある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様が笑いのある生活ができるよう努めている。それぞれの残存能力に合わせた役割を見つけだし、生活に張りを持っていただけるよう支援している。洗濯物干し・たたみ・家事仕事なども行っている。		

グループホームのぞみの家 カナリヤ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日帰りや一泊旅行に出掛けたり、市のお祭りなどにも毎年出掛け、季節の行事を楽しんで頂いている。希望時は買い物に同行する事もある。その他外食も行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時はお金を持って出掛けるなど、お金を使う機会を作っている。出来る限り、御本人に支払いをお願いしているが出来ない場合はスタッフが支援している。旅行ではお土産を自分で決め購入していた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	玄関に公衆電話を設置し、自由に使用できるようになっている。また、携帯電話使用の方もいるが充電はスタッフが支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾り付けをしたり、トイレや浴室などは分かりやすく提示している。フロアは日中も照明をつけたままにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを分けて配置したり和室を設けたりして、好きな場所でもくつろげるようにしている。導線も考え配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や仏壇などの持ち込みは自由であり、使い慣れた物・馴染みのある物・愛着のある物などで居心地の良い空間づくりをしている。使い慣れた物を置くことで、自分の居室だという認識が持てるよう配置なども工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどは分かりやすく提示している。導線も考え転倒なども防止している。浴室は広く仲の良い人と一緒に入浴する事も可能である。		